



今年度の活動もあと少しになりました。新たなスタートを迎える子どもたちをあたたかく見守りたいと思います。

時間・空間・仲間が与えられる中で

～「つながること」で育つ～

創造活動は平成元年（1989年）から現在まで、場所移転をしながら豊中市の不登校児童生徒の支援施設（教育支援センター）として豊中市在住の児童生徒・保護者のみなさんにかかわらせていただいています。

子どもたちが自立して社会で生きていくことを最終目標にし、この青少年交流文化館が安心した「居場所（空間）」になりともに活動する仲間たちや創造活動スタッフが安心できる「人（人間）」となり、じっくり人間関係構築に取り組める「時間」を設定するなど三間を保証しています。

その中の人間関係の構築について、お話ししようと思います。

創造活動に参加する子どもたちには、まず、「個人活動」を用意しています。新しい場所や人に慣れるための第一歩を確実に踏み出してもらうためです。担当するスタッフを決定し、毎週、同じ曜日、同じ時間に同じスタッフが対応します。このシステムは、「アタッチメント理論」を参考にしています。子どもの成長過程では、安心した人との安定した関係性が構築されることが求められるのですが、それを創造活動でも応用しています。対応するスタッフは子どもたちとともに活動する中で、楽しさや喜びを共有し、困りごとがあればともに考え、悲しいことがあればともに悲しむという感情共有をします。

このように子どもたちにタイムリーに寄り添うスタッフの存在が、子どもたちを安心させ、ころころつながっていくのだと考えています。そしてそこから、人の輪を広げる「グループ活動」に移行していきます。私たち大人だけの世界ではなく同年代の子どもたちの中に入ることで、今まで大人に守られていた子どもが、年下の仲間を助けたり、同年代の仲間にアドバイスしたりと変化していきます。大人との世界では見られない、自分発信の行動が見られるようになるのです。

1月の保護者全体懇談会で創造活動を経験した3人の青年たちにインタビューしました。グループ活動で仲間になった3人ですが、不登校の背景は違い、現在もそれぞれ違う場所で活躍されています。不登校の真ただ中の時は「親に申しわけない」と自分を責め、「発狂するぐらい」（本人の発言のまま）しんどかったと語っていました。しかし、またその経験は、マイナスだけではなかったとも語っています。「仲間と活動した楽しさ、仲間ができ孤独でなくなったこと、親とたくさん話したいのも一緒にいてもらって安心したこと、しんどい人の気持ちをわかるようになった」などの声を聴くことができ、今も関係が続いている3人の青年たちの成長を頼もしくうれしく思いました。

子どもたちは自分が役立つことを喜び、仲間と過ごすことを楽しみ、トラブルがあった時には、怒りや悲しさを感じます。どの感情も子どもたちにとって必要なことです。そして、自分で解決できないことがあった時はSOSを出してほしいと願っています。SOSを出すことは恥ずかしいことではなく、その人が弱い人でもないのです。自分ができないことを信頼できる他者に伝え、ともに考え、行動することはとても大切で、そのSOSを出せるのも力だと思います。

創造活動の中でいいいに人との関係性を紡ぎ、社会に生きていく礎となる「人を信頼すること」

「人と一緒にいるのが楽しいと思えること」「人を頼っていいのだということ」を伝え続けたいと思います。

～一歩踏み出そうとしている子どもたちの心と体が守られ、新たなステージに立つことができるようにと

心から願っています。～

創造活動係アドバイザー

二学期終わりの会 ～12/4(木)～

二学期のグループ活動を振り返り、仲間とともに楽しく過ごしました。

また、今年は「生活を学ぼう」で制作した竹あかりを展示している会場で、リコーダーコンサートを鑑賞させていただきました。暖かい灯りのともった空間で、仲間とのひとときを味わいました。一学期の終わりの会に引き続き、多くの子どもたちが参加できたので、あちこちに仲良しの輪が広がっていました。今後に向けての面談も行われ、充実した時間を過ごすことができました。



三学期始まりの会 ～1/6(火)～

三学期始まりの会には小中学生合わせて、29人が参加しました。

書初めでは、今年目標や自分の好きな言葉を四字熟語や英語や絵で表しました。

福笑いや坊主めくりといった正月遊びやカードゲームで仲間との交流を深めました。その間、3学期からはどうしていきたいか面談する子どももありました。

活動日の違う子どもが仲良くなり、一緒に帰っていく姿も見られました。館には笑い声が響き、子どもたちは、ゆったりと楽しく時間を過ごせたようです。

館外活動 中山寺(米谷高原)方面 山登り ～1/16(金)～

全長8km・標高400mのハイキングコースに22人が挑戦しました。中山寺のシンボル広場で準備体操をしてから山道に入ると、まずは急な階段が待ち構えていました。その後も足場の悪い道が続く中、顔を真っ赤にして登りました。お昼休みは、やすらぎ広場でお弁当を食べ、フリスビーや鬼ごっこ、グリコを楽しみました。下山では、険しい道でこけそうになりながらも何とか下り、山の出口に到着したときには皆座り込み、言葉が出ないほど疲れ切っていました。今年度最後の館外活動は体力的にも精神的にもハードでしたが、がんばった子どもたちの自信になったのではないかと思います。

第3回 保護者全体懇談会 ～1/31(土)～

今回は、創造活動を巣立ち、悩み葛藤しながらもそれぞれの道を歩んでいる3人の元登館生が体験談を話しに来てくださいました。当時のことを振り返って、“罪悪感でいっぱいだった”“普通になりたかった。普通とはなんだろうとずっと考えていた”“どうしてほしいか自分でもわからなかったけれど、家庭訪問してくれた先生と母の会話は隣の部屋からずっと聞いていた”“友だちともっとかかわりたかったという後悔はあるけれど、辛さを抱える人の気持ちを深く考えられるようになったのは良かった”と、自分の中にある気持ちをじっくり考えながら語ってくださいました。保護者の方同士のグループ交流も実施し、悩みや思いを共有し、とても有意義な時間となりました。

3月のお知らせ

- 4日 (水) 準備の会 10時半～12時半
ともに過ごした仲間やスタッフ、学生カウンセラーとゲームを楽しみ翌日の会の準備をします。そして、個々に面談をしながら次の居場所に向かったの総仕上げをします。
- 5日 (木) エールを送る会 10時～12時
1年間の活動の節目の会です。スタッフ、指導員の先生、学生カウンセラー、保護者とともにいきます。当日出席の児童生徒は9時30分登館です。
- 13日 (金) 中学校及び義務教育学校卒業式
- 17日 (火) 小学校卒業式
- 24日 (火) 小・中学校及び義務教育学校修了式

来年度にむけて

今年度のプログラム活動は3月5日(木)まで、学生の訪問活動は3月末日までとなります。個人援助活動終了日は個々にお知らせします。

学年がかわる節目を次のステップへ踏み出すチャンスととらえ、創造活動での援助は年度ごとを区切りにしています。新年度、クラスや学校が変わってがんばってみただけれど、不安や心配な状態になってきたという場合は、あらためて児童生徒課創造活動係(06-4866-6310)にご連絡ください。